

# 【16】修驗宗 神道神社印信（甲）

写1冊

## 〔解題〕

修驗神道系の秘法を集録したものである。全部で五十六種ある修法は、神社の祭祀に関するもの、兵法武具類に関するもの、日常品や生活に関わる修法など、穢などを払う修法などに分けられ、全体に簡略なものが多いた。

その一方で特徴的なのは、大量に記された和歌である。一般的に、修驗道の行法は、真言の修法と同様に、印を結び、真言を唱え、それぞれの諸仏諸尊を觀想することによって祈願を達成するものだが、本書の場合は、それぞれに和歌が書き込まれ、修法の目的や内容を、象徴的に和歌で唱えるという方式になつてゐる。和歌即陀羅尼とする思想が修驗道の修法にも取り入られているのだろう。

例えば、次のような和歌である。

・千刃破ル我心ヨリナスワサヲ  
キツレノ神カヨリニ見ルヘキ（社参大事）  
・千刃破ル神ノ神ノ社トシレ 出入息ハ外宮内宮（神道日待大事）

〔奥書〕  
元禄三<sub>甲</sub>午如月十八日書写畢  
醍醐晃深師所持内写レ之

釈快隆判

漢字を仮名に当てて記され、片仮名の振仮名が付されている。  
著者については、【17】乙本の解題で記す。

甲本の奥書には、「元禄三年（一六九〇）如月十八日書写畢／釈快隆判」とある。「醍醐晃深師所持内写之」とあって、もともと醍醐寺の晃深が持つていたものを写したとする。また「文政七年（一八二四）三月十三日書写畢 津輕深浦 授与智教房尊岸」とあり、「伝師」は「松峯山大光達法印永朝示之」とする。文政七年に尊岸は永朝に伝授を受けたのである。

傳師

松峯山大先達法印永朝示之

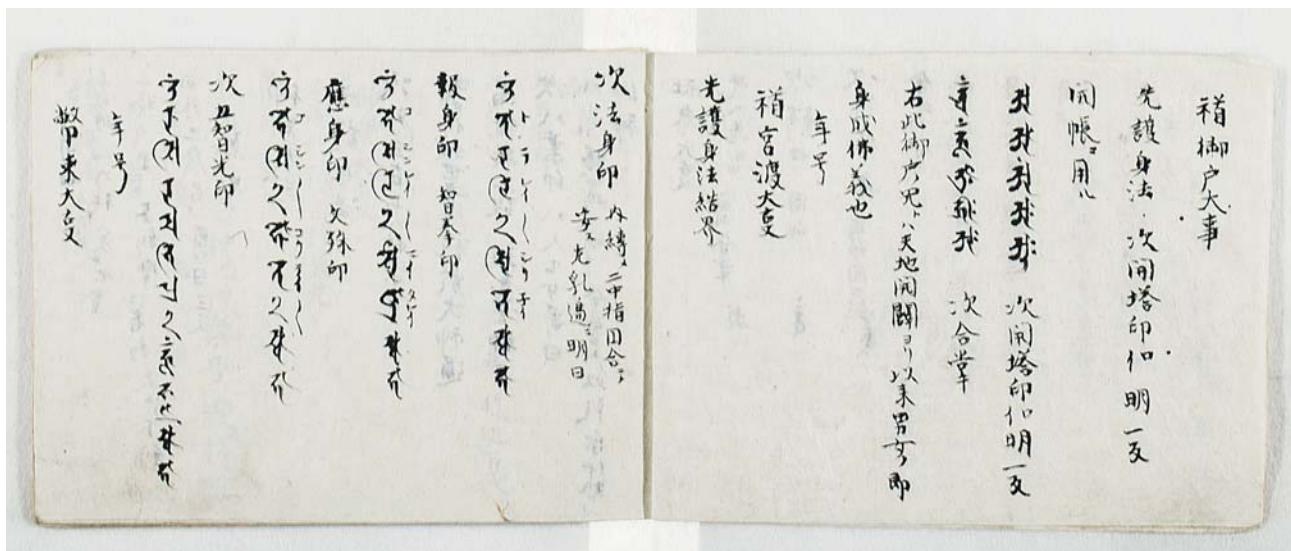
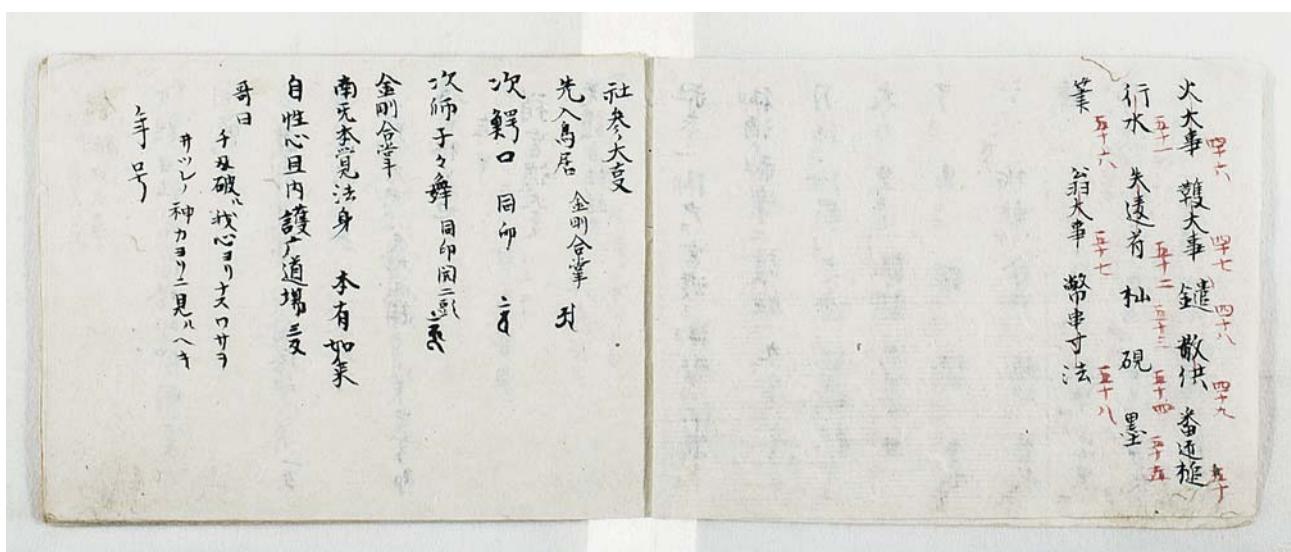
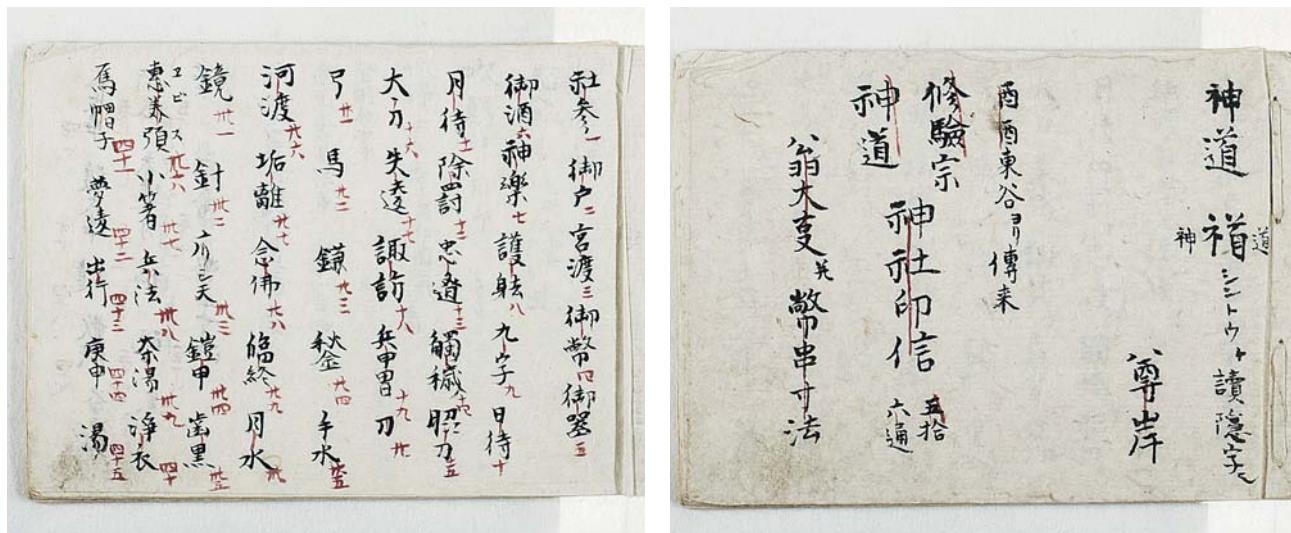
授与 智教房

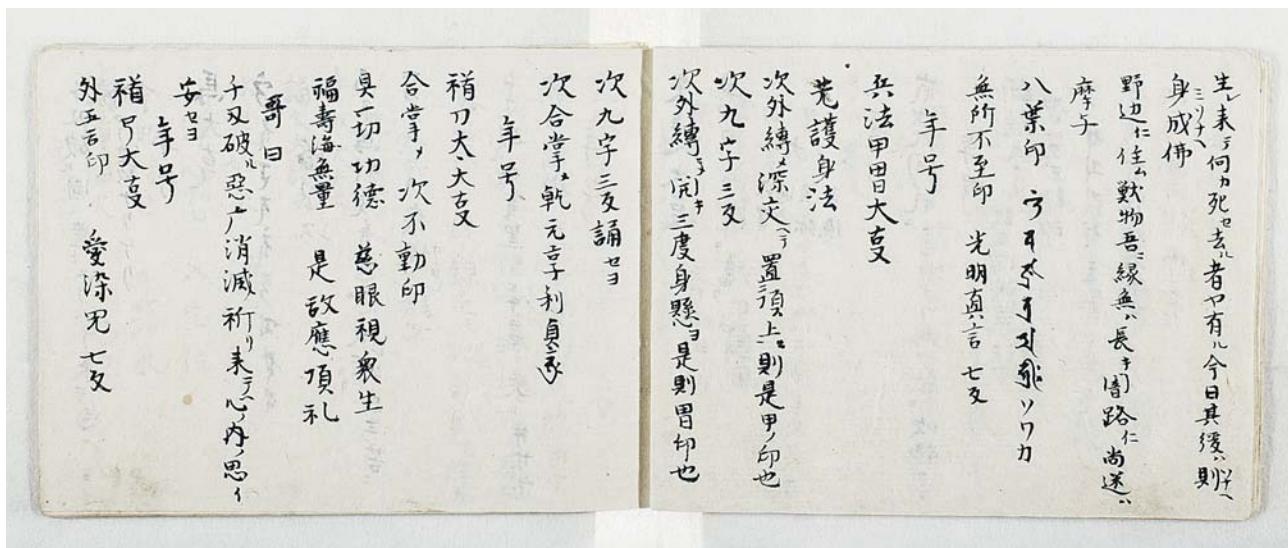
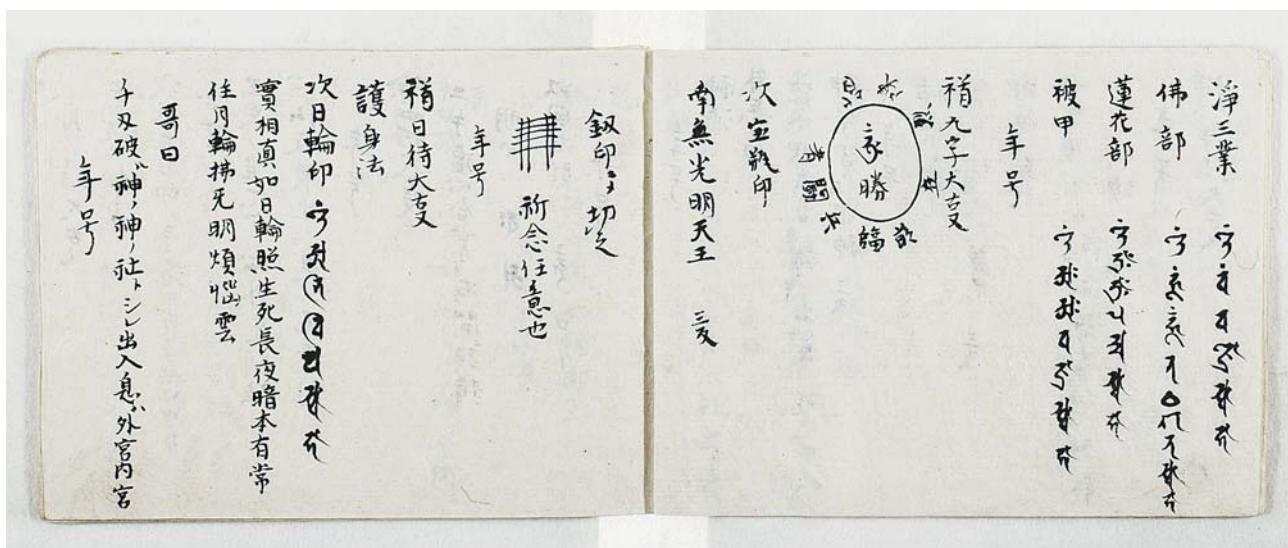
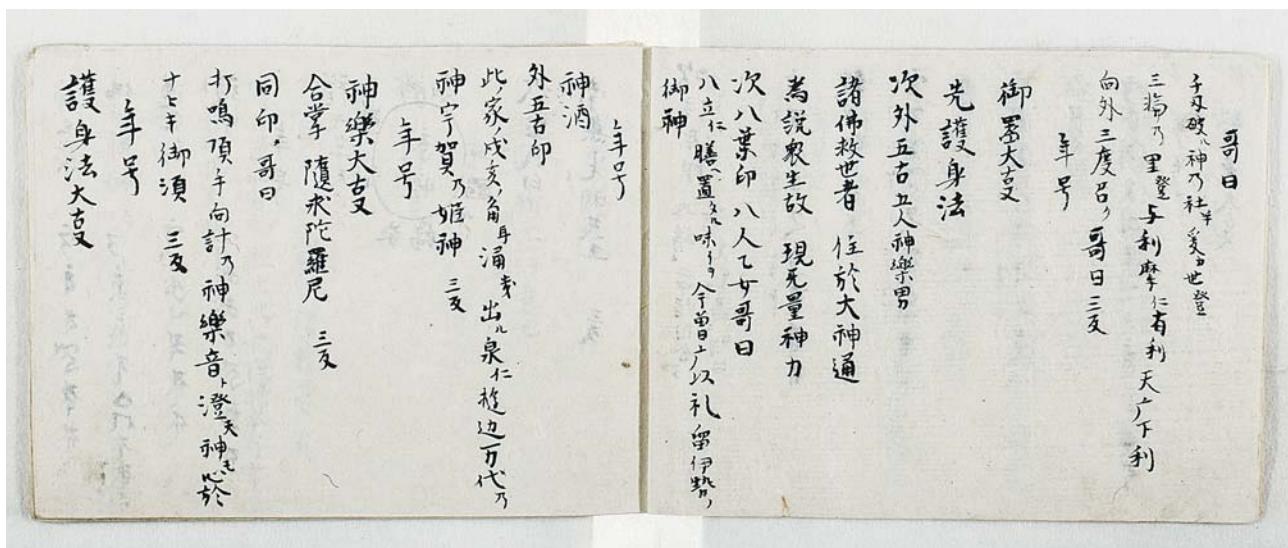
尊岸

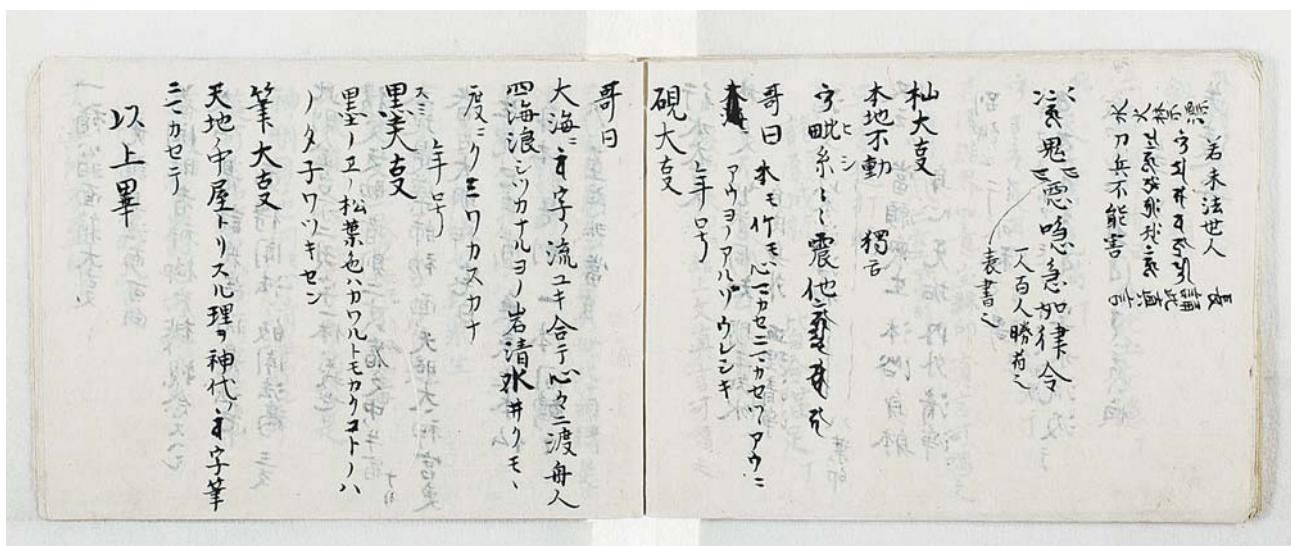
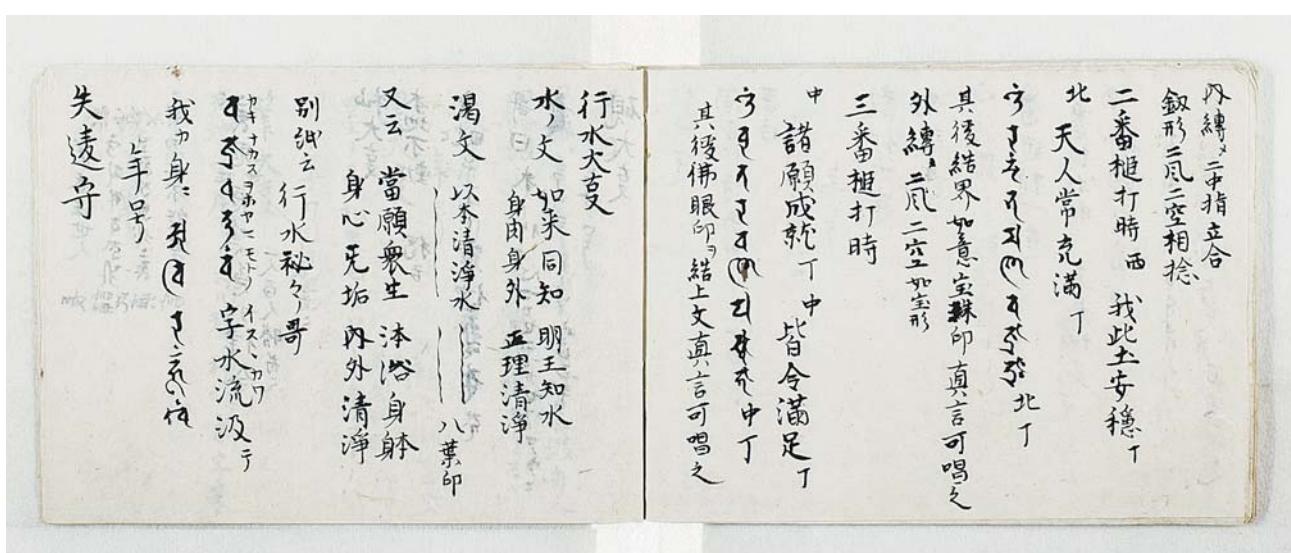
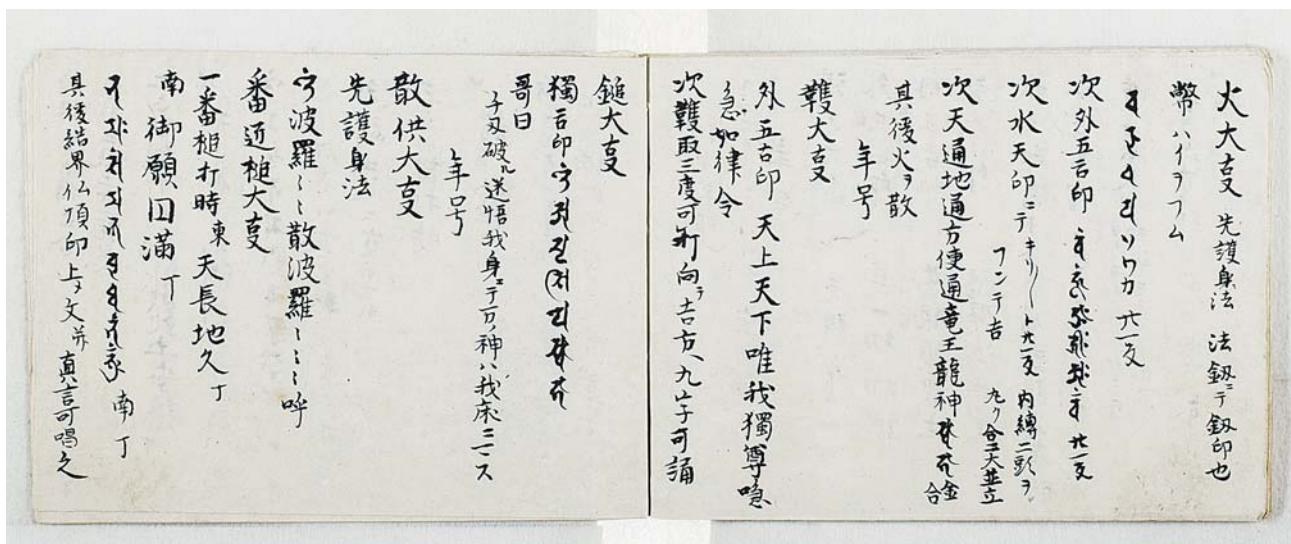
〔参考〕

・宮本袈裟雄「修驗道神道神社印信」解題（宮家準『修驗道章疏』題）、復刻『修驗道章疏』別巻、二〇〇〇〇年）

（渡辺 麻里子）







一稍翁面箱大支

先護身法而可向

益聞時者神御户桃ト観念スヘシ

文云是諸衆生聞是法已

亦得聞法故聞法爲三支

此則金台不二列字一本義也

後父之助者則二十八宿之中牛宿ナリ

本地是藥師初面天照太神宮吏

春日大明神宅曰

生死已來者無來生本仏

身體形是則一体同轉

乃至慈悲當矣

弘音列唱

座敷居各座中著

笛鼓五調子吹是則五佛表相三

種神墨太支初

百百翁ノロ羅多羅剎等我

翁ノ供神名

次座中同音加是ヘシ是則

天照太神宮本地真言同座跡矣

三番諦儀者現在過去未來初手

歲人者有是一字面箱者無不

可得一利納兩ア不二面ナリ大

支ト翁座跡明神面ハ本迹神也

右大般若波羅密多ト唱音調子ト  
百百翁ノ同調子也可秘ノ  
一国一人外者不他見者也  
是疑成入草ハ長神明可當御罰  
可信ノ

幣串尺支本ハ相用之

一尺六寸口云大界荒神神供  
時用之但燈長口ノ有之

二尺八寸二十八宿義地難用之

一尺六寸十六生義神勸請用

一尺五寸十五童子枝時用之

一尺二寸十二因縁之枝神小幣用之

五尺三寸五紺貝足枝神道大幣用之

又奉幣等用之

元祿三庚牛加月十八日書写早

叔快隆判

酉酉是深師所持内字之

文政七甲申三月十三日書写早

津輕深浦  
智教房

傳師

松峯山大先達法印永朝示之

三輪明神吾父是面形母此相繕是  
陰陽結神形也  
千歳人者人间八苦天上  
五裏苦拂儀也一切衆生  
悉々持天スムコト此自是  
和朝受生依也知モ不知三毒  
之欲雖之一心ナリ守所皆是  
神明目也何モ心清淨成三舞  
捨可者也若不淨成學肇  
者故當四討也可祕々々  
禱祕翁翁大支  
先無所不至印

支一切衆生者仏法二字禮欲皆  
界入所天照太神以御方便假  
名猿樂遇癡凡人引導給吏  
天台菴藏界樂屋翁母胎内薦  
意也同橋縣者父母萬四ノ  
ホニヰハ母乳房勢至觀音本迹也  
武体ハ是護廣道場也亦三番船御  
神樂万人之故七難拂也  
此時小鼓三カラ大鼓一刀ヲ笛合テ  
五人神樂男應身之体也故一度